

## ■ハング競技委員会議事録

### ◆日時

2016年9月23日(金) 10:00-15:00

### ◆場所

足尾ショップ

### ◆参加者

板垣(委員長)、田中、鈴木、牟田園、野尻

大沢

### ◆議事録

牟田園

### ◆議題

#### 1.前回の持ち帰り事項

板垣

- ・大会結果報告書のフォーマットを更新する  
→大沢さんが要望を板垣に伝えて、板垣がやる
- ・競技委員会として日本選手権開催スケジュールを作成して事前に主催者に打診する  
→2017年度は紀ノ川に打診済み、2018年以降も各エリアの主催者に打診中

北野

- ・競技規定に記載の名称(デパーチャーオープンなど)を世界基準の表現に統一する  
→完了

牟田園

- ・ポイント大会のカテゴリー2申請を推奨する旨を文書化し、主催者側にも告知する  
→完了
- ・次年度の規則案を作成して競技委員会の稟議にかける  
→完了
- ・「複数回スタート時の時間判定」についての回答内容を競技委員会にフィードバックする  
→完了
- ・フライングのペナルティがミニマム得点よりも大きい場合のスコアリングについてシミュレーションする  
→ミニマム得点は付与されることを確認

鈴木

- ・クラス5規則を見直す  
→完了
- ・過去に最速ゴールタイムが1.0hを切った競技の結果について、  
パラメータを変更して考察した結果を次回の競技委員会で討議する  
→来年こそはやります

野尻

- ・GAP2014の簡易説明書を作って競技規定の末尾に載せる  
→完了

#### 2.議題・報告

##### 2.1.スポーティングライセンス

- ・カテゴリー2の大会に出場する選手はスポーティングライセンスの取得を必須とする
- ・スポーティングライセンスを所持していない選手のカテゴリー2大会への参加は認めない
- ・ただし2017年は移行期間とし、ルールは2018年から適用する

##### 2.2.外国選手の初日セットアップルール

- ・ルールを明文化する(WPRSとシリーズランキングを組み合わせで選考)

##### 2.3.リスタートの判定

- ・スタート時間前後に関わらず、スタートシンダーを通過後に1stパイロンを取得した場合、リスタートは認められない
- ・選手が意図せずリスタートを切るようなタスク設定が成されないよう、競技委員はタスク設定に注意を払う
- ・ルール変更を規則に明記する

#### 2.4.資料「GPSについて」が現状に即していない

- ・ルールを見直す
- ・飛行禁止空域の高度判定はGPS高度を用いることを追記する

#### 2.5.海外獲得ポイントの条件緩和

- ・「海外の大会に参加しても採用基準が厳しくてポイントを計上できない」との意見を選手から受けた
- ・基準を「シード2人、参加人数30人」に変更する、ただしルール変更は2018年から適用する

#### 2.6.アウト&リターン、トライアングルなどの年間表彰

- ・直線距離飛行以外にも年度表彰の項目を増やしたい
- ・新設する項目は以下の3つ  
「トライアングル」、「アウトアンドリターン」、「デュレーション」
- ・名称を「XCリーグ」から「フライトコンテスト」に改める
- ・Section7に基づいて各項目のルールを規定し、HPに記載する

#### 2.7.FAIバッジの授与、FAIレコードの申請

- ・パイロットのモチベーション喚起のため、FAIバッジの授与やFAIレコードの申請を推進したい
- ・現状のネックは公式立会人が十分にいないこと
- ・競技委員が率先して公式立会になることを第一ステップとする
- ・公式立会人の検定会を開催してもらえるように制度委員会に依頼する  
なお、公式立会人の認定はJAAからJHFに移管済み

#### 2.8.国内メダルの新設

- ・<運用イメージ>
  - －FAIバッジ、レコードの運用が開始されるまで、国内のメダルを新設したい
  - －ルールはFAIに準じる
  - －メダルはJHFに申請すれば発行してもらえる
  - －申請料、申請フォーマット、申請方法など要検討
- ・<ここまで>

- ・FAIバッジの運用(公式立会人の認定制度)が開始されるタイミングを様子見する

#### 2.9.カテゴリー2申請料

- ・2016年度から申請料がエントリー1.0人分から1.5人分に値上がりになった
- ・基本的にハングシリーズの大会はすべてカテゴリー2の大会として運営していきたい
- ・大会主催者の負担を軽減するために、申請料を競技委員会の予算から捻出できないか理事会に起案する

#### 2.10.SNSの活用

- ・選手に対して積極的に情報発信するために、HP・Facebookだけでなく、Twitterも活用したい
- ・Twitterの運用方法を検討し、アカウントを作成する

#### 2.11.公認申請の承認フロー

- ・JHFおよび主催者に対して、明確な承認連絡ができていない現状がある
- ・競技委員会内でLINEグループを作成し、グループ内で承認の確認をとる
- ・競技委員会内で確認が取れたあとに、担当委員がJHFに承認の連絡を送る
- ・承認確認の期間は1週間を目安とする

#### 2.12.GAPとFSのバージョン

- ・最新バージョンがリリースされているが、世界的に見ても十分な検証がなされていない
- ・次年度はバージョンおよびパラメータを変更しない

### 3.持ち帰り事項

#### 板垣

- ・競技委員会として日本選手権開催スケジュールを作成して事前に主催者に打診する
- ・カテゴリー2申請料を競技委員会の予算から捻出できないか理事会に起案する
- ・大会結果報告書のフォーマットを更新する  
(大沢さんが要望を板垣に伝えて、板垣がやる)

#### 牟田園

- ・リスタートのルール変更について規則に明記する
- ・フライトコンテストのルール規定

#### 鈴木

- ・過去に最速ゴールタイムが1.0hを切った競技の結果について、パラメータを変更して考察した結果を次回の競技委員会で討議する
- ・公式立会人の検定会を開催してもらえるように制度委員会に依頼する（制度委員会の対応が遅れそうな場合は、国内メダルの新設を検討する）
- ・Twitterの運用方法を検討し、アカウントを作成する

#### 野尻

- ・外国選手の初日セットアップルールを作る

#### 田中(元)

- ・「GPSについて」の見直し

#### 共通

- ・海外獲得ポイントの条件緩和「シード2人、参加人数30人」  
→2018年ルール改定時に適用する
- ・世界選手権選抜の基準  
→選考の順番や繰り下げについて見直してルール化する

#### ◆役割分担

板垣: 委員長  
鈴木: 会計  
野尻: 議決管理  
牟田園: 規則管理、HP管理  
田中(元):